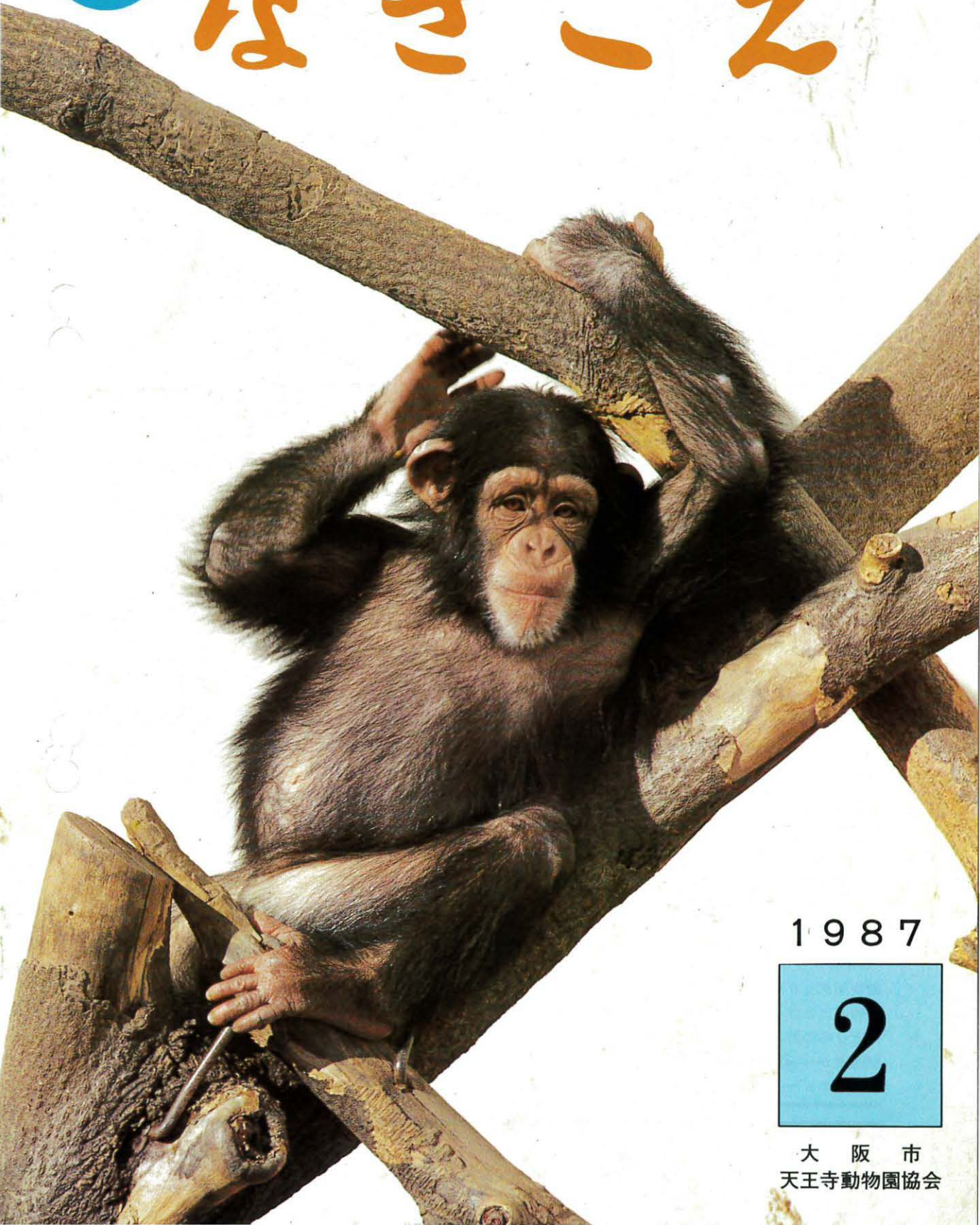




なきごえ



1987

2

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

林 公 義



「どうぶつ」そのものと意識して付き合うようになったのがいつの頃であるのか明瞭には記憶がないのである。というのは私の生まれ育った環境のせいもあると思う。両親や兄、また叔父までが魚市場勤めであった事、おまけ

に魚市場内にあった社宅で育ったこともあって物心つく以前から「生臭いどうぶつ」が私の周辺には毎日のように存在していたのがその理由と思っている。つまり私にとって最も身近な「どうぶつ」は魚であった。

小学生の頃、魚市場職員であったSおじさんが私の目の前でやって見せてくれた実験(?)は今でも強く印象に残っている。実験に使用した材料はアンコウという口の大きな魚であった。実験とはいうものの、実はSおじさんが冬の鍋物としては最高のアンコウ鍋をつくる材料として魚肉や皮を調理していたのである。今ではあまり目にするのではないのでご存知無い方も多いと思うが、アンコウを調理する時には大きなカギ鉋を口にかけて高所に吊しながら、皮を剥ぎ肉をおろすのである。頭全体が口のようなアンコウは、その大口を開けてダラリと吊るされた様子そのものが子供達にとっては今でいうオカルトのおもしろさと恐怖感に満ちたものであった。実に見事な手さばきに見とれているうち、あつという間にアンコウは大口と大きく膨らんだ内臓だけにされてしまった。後になって判った事であるがSおじさんの仕組んだ寸劇は実はこの場面から始まったのである。

膨らんで残った内臓は胃袋であり、水が入ってまるで氷嚢のようになっている。そこへSおじさんは手を入れて中から次々と手品のようにいろいろな物を取り出すのである。ビール瓶、空缶、荒縄などがなぜか胃袋の中から出てくるので人一倍大きい私の目はさらに開いてしまった。Sおじさんが言うには「海が汚れてきてしまったので、かわいそうにアンコウは食うものがなくてこんなもんで我慢しているんだぞ!!アンコウがかわいそうだと思うねえか!!」ということなのである。昭和33年頃の海は私の目にはまだきれいで、磯の生物も豊富でSおじさんの言う汚れた海の意味は全くといってよい程考えられないことであった。むしろ胃袋の中味に仰天した私は、その後魚の胃袋を何度となく開いては確かめたが空缶やビール瓶などは一度も出てくることはなかった。しかし沿岸でとれる大型の魚の胃袋に実に多くの子魚や小動物が充満していることに何か不思議なつながりをその時感じた。

水産増殖学を専攻し、今自然博物館では脊椎動物を担当しながら地域社会の教育普及活動を学芸員として行っている毎日である。野外観察での指導も多い中でやっと少しずつわかり始めた自然のしぐみをお話するとき時々思い出すがここに長々と紹介したSおじさんの実験談である。やはりその後も魚とは縁が切れずに今ではむしろ研究資料として扱っている魚と海の現況をみるとSおじさんの実験談は単なるマジック的な話とは思えない。当時すでに魚市場裏の海は投棄された汚物が打上げられていたし、漁網にも魚に混ってゴミ類がかかっていたこともあった。今野生生物の保護に対する警告が全球的規模で行われているが、Sおじさんのナチュラルリストの好奇心と野外教育のリーダー的思考がもっと普及して欲しいと思う近頃である。冬に美味しいアンコウ鍋を次の世代に残すためにも。

(横須賀市自然博物館学芸員)

なきごえ2月号もくじ

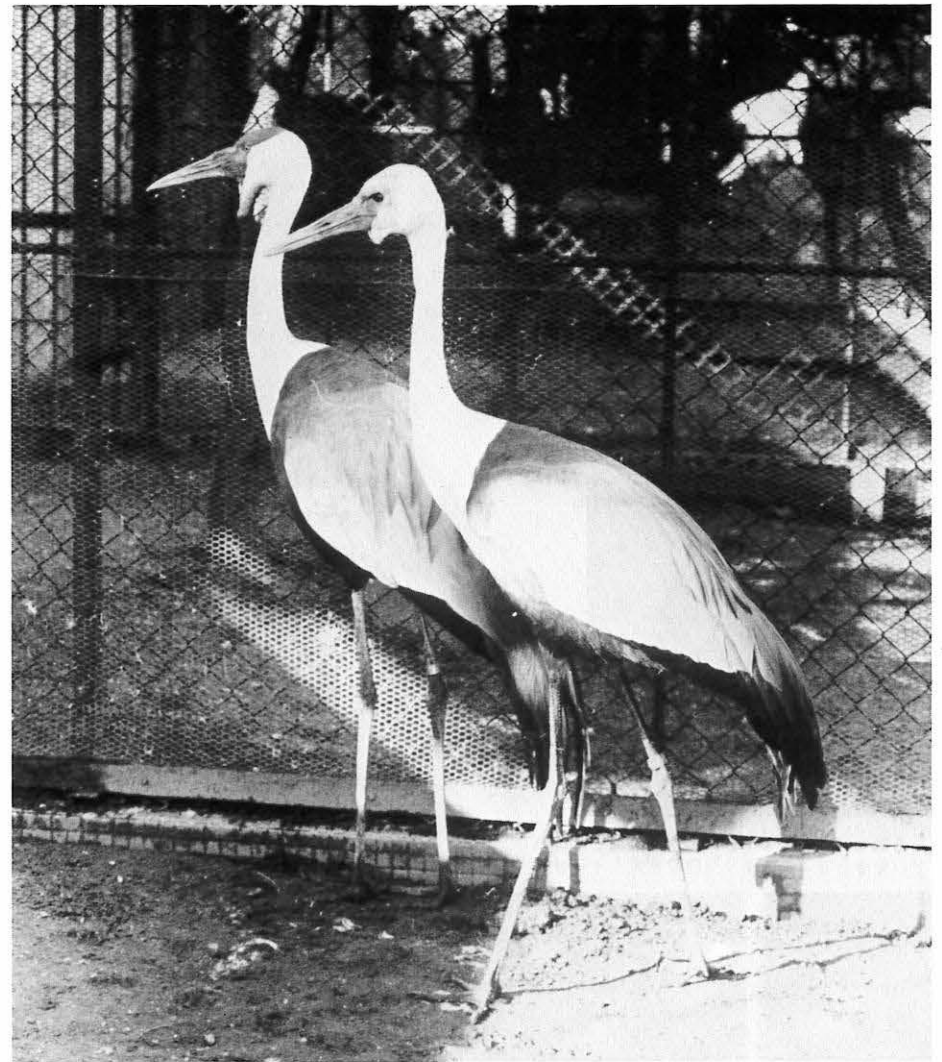
動物と私	2
“ホオカザリヅル若オスの来園”	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
動物園における生態的展示	6・7
身近な冬の野鳥	8・9
獣医室から ④	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“チンパンジー” (*Pan troglodytes*)

アフリカ中西部に分布するチンパンジーはゴリラ、オランウータンと並んで最も知能の高いサルの仲間です。行動をじっと見ているとその人間臭さに思わず苦笑させられることがあります。

(撮影：大川光雄)



“ホオカザリヅル若オスの来園”

昨年12月7日に上野動物園から贈られて来た若鶴君。自慢の肉垂れもまだ短く、頭の羽色もでておらずまだまだ可愛い青二才。2世誕生は4~5年先になるでしょう。(手前)

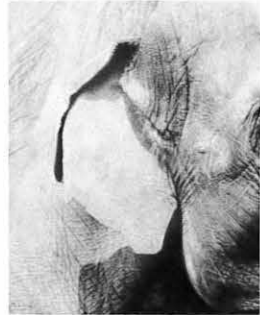
(撮影：中川 哲男)

動物園グラフ

“誰のミミかわかりますか”
“ミミあれこれ”



ヒント：おなかの袋で子供をそだてます。



ヒント：陸上では一番大きな動物です。



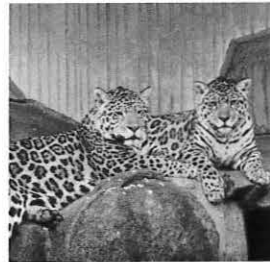
ヒント：私も袋を持っています。肉食性で悪魔と呼ばれています。



ヒント：夜行性で目と耳がとて大きく、樹上生活をしています。



ショウガラゴ



ジャガー



タスマニアデビル



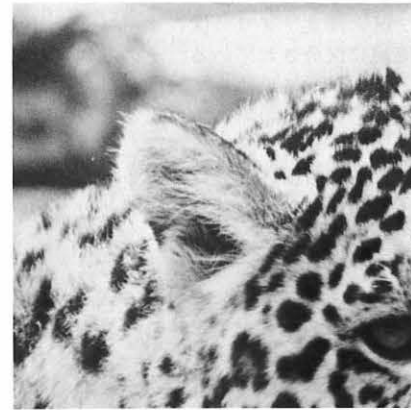
クロサイ

12・1月の動物園日記

- 12/7. 繁殖を目的とする動物の貸借、ブリーディングローンにより、富山県の高岡古城公園動物園からフクロテナガザルのオスが1頭来園しました。また、ホオカザリヅル1羽とルリコノハドリ5羽の寄付を恩賜上野動物園より受けました。ボランティア・夜の動物園見学会を開催しました。
- 12/8. 近畿地区動物園獣医師勉強会を行ないました。
- 12/11. アミメニシキヘビの長さを計測したところ、

- 全長は7.8mもありました。
- 12/13. サイ舎の暖房を始めました。ブタオザルの左足皮膚が水虫様の症状を示すため、細菌検査を行ないました。ハリモグラ展示室の土の交換を行ないました。
- 12/14. ニホンジカ全9頭とダマシカ全2頭をサル舎前の仮収容舎へ移動しました。フクロテナガザルとチンパンジー、オランウータンにツベルクリン接種を行ないました。
- 12/17. アジアゾウ“ハル子”の左上臼歯が1個脱落しました。

今年のエトはウサギです。ウサギと言えば大きな耳が特徴です。いろんな動物のミミを集めました。誰のミミかわかりますか？ (撮影：野口 秀高)



ヒント：ヒョウとよくまちがわれます。



ヒント：顔が長く、人間はよく〇〇ヅラといいます。



ヒント：「森の人」といわれています。人間の耳みたいですね。



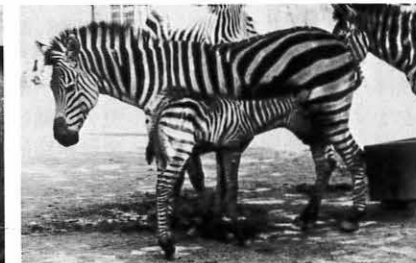
ヒント：大きな角が2本たてにならんでいます。



アカカンガルー



ゾウ



シマウマ



オランウータン

- 12/18. ホッキョクグマの内部寄生虫の駆虫を行いました。
- 12/19. チンパンジーのオス“リッキー”がかぜで熱があるため治療を行ないました。
- 12/20. 動物病院の大そうじを行ないました。オランウータンのメス“サツキ”の尿中ホルモン検査を行ないました。
- 12/21. 自分の胸を自分でつついてケガをした(自虐症)のヒメコンドルは8月より再入院し治療を行なっていましたが、治癒したため退院し展示を開始しました。
- 12/24. クロオオカミが交尾しました。
- 12/25. カリフォルニアアシカのオス1頭を浜松市

- 動物園へブリーディングローンで貸出しました。
- 12/27. 翼を骨折したコミズクを1羽保護しました。
- 12/30. ミカドガンが起立困難に陥ったので、すぐ入院させました。
- 12/31. キーウィの体重測定を行ないました。夜行性動物舎の展示室に敷かれている枯葉を新しいものと交換しました。
- 1/1. エトにちなむ「ウサギの郷土玩具展」がはじまりました。(2/11まで)
- 1/2. 新年の「楽しい動物映画の会」が開催されました。(1/4まで)
- 1/7. アオバトが産卵しました。

動物園における生態的展示

なきごえ23(2),1987

若生 謙二

かつて川田健氏は、モンキー紙に「くたばれ大艦巨砲主義」と題する文章をあらわしている。動物園を評価づける尺度は、コレクションの規模ではなく、たとえ小さくとも個性のある動物園づくりこそが必要だ、というのである。心にきざまれた動物園として、アリゾナ・ソノラ砂漠博物館をとりあげて展示のもつ役割について問いかけている。私はまだ訪れたことはないが、この砂漠博物館は砂漠という生息環境での生物のくらしぶりを展示したのとして評価のたかい動物園である。

動物園における個性とは、ただ動物をおくだけでなく、どのように見せるかという展示によって大きく高められるといえるのではないだろうか。

1907年にハンブルク郊外に建設されたハーゲンベック動物園のパノラマ展示は、それまでの動物園展示をかえる決定的なものとなった。あくまで動物をみやすくしたモート式の展示方法は、その後世界中を駆けめぐり、アフリカの動物をそのパノラマにおさめた手法は、動物を地理的におさめるという考えかたにすすみ、のちに動物地理学的な配列の動物園を生みだすことになった。

L. カーティスは、動物園の展示配列の考え方を1. 系統分類学的、2. 動物地理学的、3. 生息地別、4. 行動学的、5. 一般的、の5つの配列にとりまとめた。動物を生態的に展示するという考え方が提起されたことは、高く評価されてよいであろう。しかしながら、ここで示された生息地の概念とは、森林、草地、水辺などの簡略なものであり、動物園全体の配列を秩序だてる考え方までには至っていない。動物の生息地を生態的に秩序だてた展示配列を行うには、もう少しこの見方をすすめた考え方が必要なのである。佐々木時雄氏は、生息地別配列は



ブロンクス動物園「鳥の世界」での干渴の展示

動物園展示にとって今世紀後半の課題であると述べている。動物地理学的配列は、動物園全体の展示配列を秩序だてた最初のものであり、世界の動物園建設に影響をあたえたが、生息環境の再現を秩序だてる方向にはすすまなかったのである。今日なお世界

の動物園建設に影響を及ぼしている動物地理学的配列の検討を通じて、生息地別配列の可能性について考えてみることにしたい。

動物地理学的配列の動物園は、一般にアフリカ区、アジア区、南北アメリカ区、オーストラリア区、などの圏域に区分されている。その基礎になっているのは、ウォーレスによって大成された動物地理学の考え方である。この考え方によると世界の動物相は、旧北区、エチオピア区、東洋区、オーストラリア区、新北区、新熱帯区、に分けられる。この区分は、種の進化の結果としての地理的隔離という種の地理的分布の考え方にもとづいている。つまり、この区分には動物の生息地をあらわす考え方は、とり入れられていないのである。したがって、この区分から圏域計画をすすめても、生息地の環境を秩序だてるという考え方は生まれてこないというべきであろう。にもかかわらず、この配列がながく定着し、アフリカのパノラマのように部分的な生息地の環境を模した展示が生み出されてきたのは、この地理的区分が、我々が通常いっている地理的な空間のイメージと強く結びついているため、アフリカといえばサバンナというような、いわば卓越した景観にとりこまれてきたからであるといえる。

しかしアフリカには、サバンナのほかに熱帯雨林や砂漠も存在している。つまり、同じエチオピア区の動物でもライオンとゴリラとバーバリシープの生息環境は全く異なっているのである。新熱帯区とよばれる南米をみても、アマゾン降雨林、ギアナ草原、パタゴニア砂漠、と幅広い景観が存在している。この見方は、動物の地理的分布に対して生態的分布とよばれているものである。植物群落や地形によって相観的に識別されるこれらの対象は、生態学ではバイオーム (Biome, 生物群系) あるいはフォーメーション (Formation, 群系) と呼ばれている。この見方で動物園の展示をながめると、生態的展示の対象は飛躍的にひろがる。

バイオームの数は、生態学に対する見解を異にする学派によって異なり、まだ意見の一致をみていないが、基本的にはツンドラ、タイガ、温帯落葉樹林、温帯湿原、チャパラル、砂漠、サバンナ、熱帯灌木林、熱帯落葉樹林、熱帯多雨林、にわけられる。温帯落葉樹林、を例にとると、これは北アメリカ東部、ヨーロッパ、日本やオーストラリアの一部、南米の先端部などにみられ、独自のバイオームとして植物群落と地形によってかたちづけられた、それぞれの景観をもっている。これらのバイオームは、極相林型によってブナーカエデ林などのさらにこまかい亜区分にわけられる。

このような相観的に識別されるバイオームにもとづいて展示を行うならば、それぞれの景観をつくりだすことになるので、きわめて生態的な展示であるということが出来る。つまり、動物の生息地の景観を再現することが、展示の指針となるのである。こ

なきごえ23(2),1987

の考え方にたてば、生息地別に秩序だてた展示をおこなうことも可能である。

しかしながら、これはあくまで展示の考え方である。それでは、はたして都市の限られた敷地のなかで、このような生態的展示を行うことは可能なのだろうか。私は、何をみせるかという明確な意図と、動物園の側にそれを裏づける自然観があるならば、たとえ小さな敷地であっても世界に冠たる生態的展示を行なうことは十分に可能であると思っている。

すべてのバイオームを展示することは、たしかに



「適応の世界」ディファイアンス岬動物園

膨大な敷地を必要とする。しかし基本的なバイオーム、あるいは気候的制約に対して再現の可能なバイオーム、展示のテーマに対して必要なバイオームなど、バイオームの幅を選択することによって、この問題は解決される。またこの選択は、動物園の性格を決定するものになるので、何をみせるのかという展示の対象を明確にする必要がある。個性のある動物園は、このようにしても生みだされるのではないだろうか。

バイオームは植物群落にもとづいているので、その生態的展示には造園技術のはたす役割が高い。

川田健氏を感動させたアリゾナ・ソノラ砂漠博物館は、北アメリカ西部の砂漠バイオームでの動物の生息環境を展示したものである。またワシントン州タコマにあるディファイアンス岬動物園・水族館では、わずか10haの敷地の一部にツンドラ地区と米国北西部の海岸地区の生態的展示をおこなっている。シアトルにあるウッドランドパーク動物園では、バイ



ウッドランドパーク動物園でのゴリラの展示

オームにきわめて近い気候区分による配列を行い、すでに熱帯雨林、サバンナ、温帯落葉樹林の3地区が公開されている。これらは、いずれもすばらしい出来ばえである。なかでも熱帯雨林地区のゴリラの展示には、つよい印象をうけた。ゴリラのすみかは、一面が植物におおわれて熱帯雨林の様子が、あくまで自然にそして美しくつくりだされている。つめたいコンクリートの上にはゴリラをみたことのない私は、美しい緑と土にかこまれてくらすゴリラの家族の姿をみて、これまでにない感動をあげた。

バイオームを展示に具体化するもうひとつの方法は、室内でのジオラマ展示である。ニューヨークの自然史博物館でははじめられたこの展示の手法こそ、小面積でバイオームを展示するのにふさわしいものといえるだろう。シンシナチ動物園に新しくできたネコ科舎のガラス式の室内展示には、この手法がとりいれている。擬岩や擬木とともに背景と両脇の壁には、精巧な透視画法でバイオームの奥行き感が表現されて、高山帯のユキヒョウやアマゾン雨林のジャガーが展示されている。



高山帯のユキヒョウ、シンシナチ動物園のネコ科舎

生態的展示は、バイオームのような自然景観にかざることなく、人間生活と自然のかかわりを展示することも可能である。ボストンのニューイングランド水族館では、入植当時の港のきれいな海底の様子と、現在の汚染された様子が並べて展示されている。そこでは魚相もなってしまうのである。

生態的展示は、ひとつひとつが社会にはたらきかける造形的な作品である。生息地の景観が正確にかつ審美的につくりだされるならば、それはあるいは原生林で野生のシカをみることの感動を呼びおこすことが出来るかもしれない。またそれは、みる人の自然に対する考え方をゆさぶることになるかもしれないし、それはバイオームの景観を破壊しようとするような働きに対抗しようとする力をつけることになるかもしれない。

なによりも景観をほうふつとさせる展示は、みて楽しいものである。

生態的展示とバイオームの関係については、近くもう少し詳しく論じるつもりである。

(日本造園学会・日本展示学会各会員)

身近な冬の野鳥

動物園では四季折々、いろいろな野鳥を見ることが出来ます。冬は落葉樹の葉が落ち見通しがきくため、木々にとまる鳥が見やすく、また、餌の少くなる冬には平地に降りてくる鳥も多くなり、野鳥観察には良い季節です。もっともツバメなどの夏鳥や春と秋の渡りの季節に羽を休める野鳥は観察することは出来ませんが、ほとんどの野鳥は冬に見ることが出来ます。過去5年間の園内野鳥観察記録を見ても、1年間で30~36種の野鳥が園内で観察されていますが、その内12~2月の冬期には20~25種が観察されていることから冬に野鳥が多いことが分かります。

野鳥を分類すると、一年中見られる留鳥、夏に南の方から渡ってきて日本で繁殖する夏鳥、冬に北から日本に来て越冬する冬鳥、そして、春と秋の渡りの時期に日本を通過する旅鳥に分けられます。ここでは冬に見られる野鳥ということで留鳥と冬鳥について、動物園での観察例を中心に大阪の冬の野鳥についてお話ししましょう。

冬の代表はなんといってもカモ。動物園で最も多いカモ類はカルガモです。毎年冬に南園の日本庭園の池にやってきますが、今年は日本庭園でバードゲージの工事が始まったため見られなくなりました。工事が始まるまではこの冬も30羽ぐらい見られました。このカモは雌雄同色で体は褐色で黒褐色の斑があり、くちばしの先端が黄色なのが特徴です。全国的に繁殖しており、淀川などでも繁殖しています。日本では最もポピュラーなカモですが、世界的に見れば東アジアに分布が限られたカモです。



カルガモ

その他のカモではヒドリガモ、オナガガモ、マガモなどが過去に動物園で観察されています。

ヒドリガモのオスは、頭は栗色で中央部が黄白色をしています。日本には秋に渡来し、昼間は主として海上や広い湖などで生活し、夜間、水田や沼沢地に飛来します。毎年1月15日に全国規模で行なわれるガンカモ調査の結果を見ても、大阪では最近毎年ヒドリガモの渡来数が最も多いようです。動物園でも毎年ではありませんが、少数が観察されています。この冬も、一番から二番がバードゲージの工事が始まる前には連日観察されていました。

マガモは最もよく知られているカモで、オスは首が青く、くちばしが黄色のカモで、アヒルの原種と

して知られています。マガモはユーラシア大陸、北アメリカに広く分布しており、日本では冬期に全国で広く見られますが、少数は日本でも繁殖しています。近畿地方では、滋賀県の三島池が繁殖地の南限として知られています。動物園では1984年から毎年少数ですが観察されています。

オナガガモのオスは頭から首にかけて褐色で、黒色の長く尖った尾羽を持っています。このカモも広くユーラシア大陸、北アメリカに分布しており、日本には冬鳥として渡来します。動物園には1982年から1983年に少数が渡来しています。

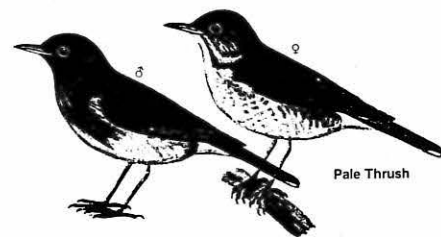
大阪平野の南部には溜池や古墳の水濠が多く、カモ類の格好の渡来地になっています。また、淀川や大和川のような河川でも多くの野鳥を見ることが出来ます。大阪で記録されるカモ類は上記以外にも、池や川ではヨシガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、ホシハジロなどが、海ではズガモやピロードキンクロなどがあります。

スズメ目の小鳥のうちで冬鳥の代表はツグミです。ツグミは全長が24cmぐらいの赤褐色の地味な鳥ですが、きわめて普通の冬鳥でシベリア地方で繁殖し、毎年冬に大群で日本に渡ってきます。北海道や本州中部以北では少ないのですが、本州中部以南では、市街地や公園、農耕地などでよく見られます。動物園でも毎年観察されますが、今年のような暖冬には市街地では少ないようです。



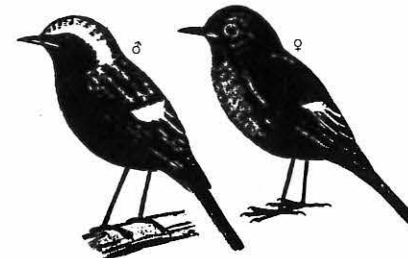
ツグミ

ツグミと同じ仲間にシロハラという鳥がいます。ツグミとほぼ同じ大きさの暗褐色の地味な鳥ですが、胸から腹にかけて少し汚れた白色をしているのでこの名があります。中国東北部や朝鮮半島で繁殖し、冬に日本へ渡ってきます。キョツ、キョツと甲高い声で鳴くのでよく目立ちます。ツグミより少ないですが市街地の公園などでも見かけます。動物園では毎年少数ですが記録されています。



シロハラ

ジョウビタキも冬鳥で、シベリア南部、中国東北部、朝鮮半島などで繁殖し、日本で多数越冬します。山すそや農耕地、公園などでよく見られます。体の下面のオレンジ色と翼の白斑がたいへん目立ちます。

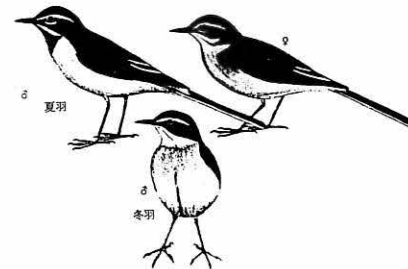


ジョウビタキ

数は多くありませんが、動物園でも冬中見られます。

カシラダカはホオジロの仲間、体長15cmの小さな地味な鳥ですが、頭に短い冠羽のあるかわいい鳥です。シベリア東部で繁殖し、冬は日本や中国南部ですごします。動物園では毎年ではありませんが、時々観察されます。

次に留鳥なのですが動物園のような市街地では冬に見かける鳥をいくつか紹介しましょう。セキレイ類は動物園ではキセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイの3種が観察されます。いずれも全長20cmぐらいの小さな鳥ですが、長い尾を上下に振りながら地上を歩きまわるのでよく目立ちます。キセキレイとハクセキレイは大阪近郊でも繁殖していますが、ハクセキレイは本州中部以北でしか繁殖していません。



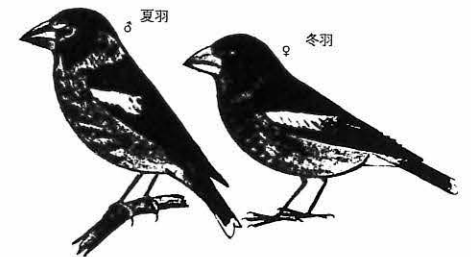
キセキレイ

ん。キセキレイとハクセキレイはユーラシア大陸に広く分布していますが、セグロセキレイは日本特産の鳥です。キセキレイとセグロセキレイは秋口から初冬に比較的多く、ハクセキレイは冬中見られます。

シメとイカルとはよく似た鳥で、太い大きなくちばしをもっています。シメは褐色を基調とした鳥で、イカルは頭と翼が黒く、他の部分はだいたい灰色で、くちばしが黄色の鳥です。イカルは日本全土で繁殖していますが、シメは北海道でのみ繁殖しています。動物園ではどちらも冬中みられますが、シメのほうが多く見られます。

シジュウカラ、メジロは夏にも見られることがありますが、やはり冬のほうが回数も数も多いようで、

コガラやエナガ、コゲラと混群をつくっていることもあります。



シメ

コゲラは小さなキツツキで、日本全土で留鳥として繁殖しています。冬には市街地に漂行するものもあります。最近、コゲラは都会へ進出してきているといわれていますので、近いうちに動物園内でも繁殖するかもしれません。



コゲラ

ムクドリは一年中見られ、園内でも繁殖していますが、秋から群をつくり始め、冬には100羽以上の群れをつくって行動する様子はなかなか壮観です。



ムクドリ

冬の代表的な鳥達をおわかりいただけただけでしょうか。ちょっと寒いですが、かわいい野鳥との出会いを楽しんでみませんか。

※図版はいずれも日本野鳥の会発行
"フィールドガイド日本の野鳥"より

(飼育課：獣医師 榊原 安昭)

獣医室から ④2

伝染病から動物を守る

私たちは、子供のときから数々のワクチン接種を受けてきました。日本脳炎、百日ぜき、インフルエンザ、おたふくかぜ、結核のワクチンなど今から思うとあの注射の痛かったこと。BCGなどは腕に明瞭なあととなって残っています。こんなことになってもワクチンをどうして接種しなければならぬのか？これら全てが生死にかかわる恐しい病気ですが、実際に感染してしまう前に伝染病に対する抵抗力をつけておけば感染しないか、感染しても軽症ですむということから行なわれている積極的な予防措置なのです。

動物園でも、考え方は変わりません。哺乳類では、イヌ科、ネコ科。鳥類ではキジ科においてワクチン接種を実施しています。応用しているワクチンは、家畜、家禽のために開発・使用されているもので、他の動物園では、ウシ科にも応用している所があります。



トラの子へのワクチン接種

イヌ科では、オオカミ、ジャッカル、コヨーテ、ドール、キツネ、タヌキに5種のワクチンを接種しています。オオカミでは、今までウイルス性の伝染病である犬ジステンパーの発病で死亡に至るケースが時々ありました。この病気は、肺炎や、中枢神経の異常を起し、犬なら、1回はかならずかかる昔からよく知られ恐れられている病気ですが、まだまだまたの犬たちがこの原因ウイルスを持ち運び、めぐりめぐっては動物園の動物たちにとり付くのです。しかし、ワクチン接種をしている現在、その発病は全く無くなりました。また、残り4種の伝染病、犬伝染性肝炎、犬パルボウイルス感染症(犬ボックリ病)、レプトスピラ(2種)も発病をみたことはありません。

ネコ科では、ライオン、トラを筆頭に、オオヤマネコ、カラカル、ボブキャット、ジャングルキャット、ベンガルヤマネコなどに、猫伝染性腸炎はもちろんのこと、昨年は最近やっと我が国で使用が承認された猫ウイルス性鼻気管炎や猫カリシウイルス感染症のための混合ワクチンも接種し始めました。これで今後はこれらの病原ウイルスによって起き易い肺炎などの呼吸器病から悩まされずにすむものと安心しています。しかしながら、動物園の動物は何しの家畜のイエネコと異なり、全てが野生ネコでの応用例ですから、効果の点ではまだまだ期間をおき様子を見守る必要があるのは事実です。効果判定のために血液を採取し抗体価を測定できればと考えて

いますが、採血するためには危険の多い全身麻酔を行わなければならないため、ケガをした時など麻酔を要する機会にのみ実施を考えています。

キジ科で応用しているワクチンは、ニューカッスル病、鶏伝染性気管炎ならびに鶏痘のための予防ワクチンです。当園では鶏痘が20年前

にニジキジで発症していますが、ついに数年前にはシチメンチョウにおいて激しい流行を経験しました。これらの病気に対する免疫性は、月日の経過とともに、漸時低下をしますので、一年に何回かの割でワクチン接種を施す必要があります。当園では、年2~3回の接種を行っていますが、その免疫性的確な把握とワクチン接種プログラムの立て方は今後の大きな検討課題となっています。

伝染病を予防する意味では、病原菌自体を殺す消毒や殺菌も1つの方法ですが、これだけでは不十分で限界があります。伝染病に対して強い抵抗力をつけること、つまりワクチン接種の励行こそがよろばぬ先の杖となり、長生きを約束する大きな要素となるのです。

(飼育課：森本 委利)

動物園ニュース

§ フクロテナガザルのオス来園

フクロテナガザルのオスが12月7日に来園しました。当園では1983年以来メス1頭を飼育していましたが、かねてからオスの入手を希望していましたが、国内の動物園での飼育数は比較的少なくなかなか実現しませんでした。しかし、このたび、富山県の高岡古城公園動物園のご好意で、オスを繁殖を目的としてお借りすることになり、待望のオスが来園しました。



来園したオスは“アン”といい、推定8才のりっぱなオスで、高岡で3年あまり飼育されていたものです。

検疫終了後、12月14日から檻ごしの見合いを開始し、22日にはメスと同居させることができました。借り受けの契約期間は3年ですが、貴重なテナガザルですので、ぜひ繁殖に成功させたいものです。

§ ホオカザリヅル、ルリコノハドリが来園

ホオカザリヅルとルリコノハドリが、上野動物園のご好意で12月7日に来園しました。



ホオカザリヅルは、くちばしのつけ根のいぼ状の突起が特徴的なアフリカに生息するツルです。当園には1984年に来園したメス1羽だけが飼育されておりましたので待望のオスの来園です。昨年5月生まれましたので、今年の繁殖は無理かもしれませんが、同居もうまくいき、メスはここ数年産卵していますので、将来、繁殖が期待できそうです。(3ページ参照)

一方、ルリコノハドリはインドから東南アジアに分布するたいへん美しい深青色のスズメ目の鳥ですが、今回オス3羽、メス2羽の合計5羽の寄贈を受け、12月13日から小鳥舎に展示しました。

§ カリフォルニアアシカ、浜松動物園へ出園

12月25日カリフォルニアアシカのオス1頭が、繁殖を目的として静岡県

の浜松動物園へ貸し出されました。

出園したオスは、1982年に当園で生まれたオスで2歳年上のオスとの闘争がみられ、受け入れ先を捜していたところ、浜松動物園では繁殖に適するオスがいないとのことで話がまとまり、貸し出されることになりました。うまく浜松動物園で子供が生まれたいものです。

§ 動物園のお正月

恒例の動物舎のメ縄かざりはウサギ年ということで、12月24日にチンパンジー舎南に特設したウサギケージで行なわれました。従来から飼育していたカイウサギ8頭に加えて、インド原産のヒマラヤンとフランス原産のレッキスをそれぞれ一番、特別展示しました。



また、ウサギのおもち展も1月2日から

2月11日までの予定で京都市在住の郷土玩具収集家、平田嘉一氏提供の愛知県の「夫婦もちつきウサギ」を初めとする36都道府県の290点の郷土玩具を展示しました。



また、1月2日から4日までの3日間、レクチャールームで「ウサギとカメラ」などウサギの登場する児童映画6本の上映を行ないました。入場者には各日、先着300名の方々にウサギのイラスト入りのコースターを配布し好評でした。

◎お知らせ

- 動物のお話とスライドの会
- 2月15日(日) 冬鳥の話
- 3月15日(日) 草食の動物
- 4月19日(日) ネコの仲間たち
- 時間：午後1~2時
- 於：北園レクチャールーム

休園日のお知らせ

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。4月までの休園日は下記のとおりです。
2月16日(月)、3月16日(月)、4月20日(月)、
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

現在の飼育動物数

(1986年12月31日現在)

哺乳類	13目	110種	441点
鳥類	20目	184種	619点
爬虫類	3目	32種	50点
計	36目	326種	1110点



ゆとり満喫、信頼のカード。

ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード (キップス) **KIPS**

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの
ご利用にはいろいろな特典が。

近鉄百貨店

お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ

●アベノ店7階●上本町店10階●東大阪店本館●奈良店4階●西京都店1階
(京都ファミリー)

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

●オールカラー

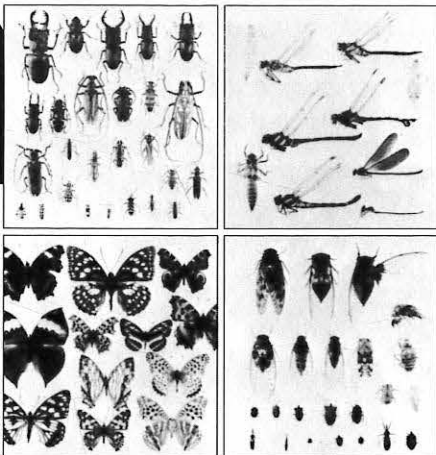
むし

くらしとかいかた

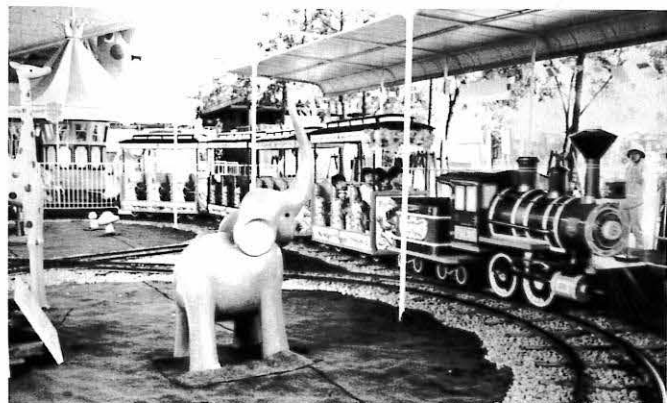
今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

85面形
84ページ 580円

ひかりのくに株式会社
〒543大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

いま、フィルムは 頭脳をもった。



高画質時代をリードする

はるかに美しく

フジカラー SUPER HR

カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031



- 貸出品目/ビデオ「動物園へ行こう」
①巻・20分(10本常備)
- 対象/保育園、幼稚園、小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し、郵送料450円は必要)
- 申込先/当協会まで、電話かハガキでお申し込み下さい。

動物観察の手引に

天王寺動物園 ガイドブック

のご購読をおすすめします。
(1冊¥450)園内各売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会

〒543/大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

猫の歴史と奇話

(定価・2600円)
A5判・260頁
口絵挿画・113図

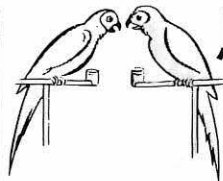
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史
欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説
老猫化けてさまざまな怪異をなす |
| 第三章 猫の報恩談
蛇を咬んだり、金を運んだりする | 第四章 野性猫の存在
裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡米など |
| 第五章 猫の奇話(上)
長命、多産、三毛猫などの形態の奇話 | 第六章 猫の奇話(中)
長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)
マタタビを媚薬とする奇妙な習性など | 第八章 益獣としての猫
あらゆる角度から猫の生態と効用を探究 |

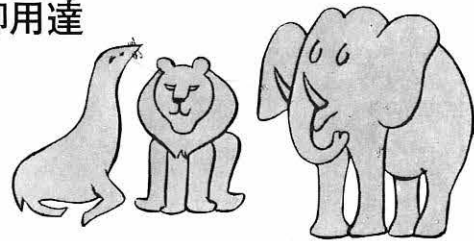
発行 動物文学会 下152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800 発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

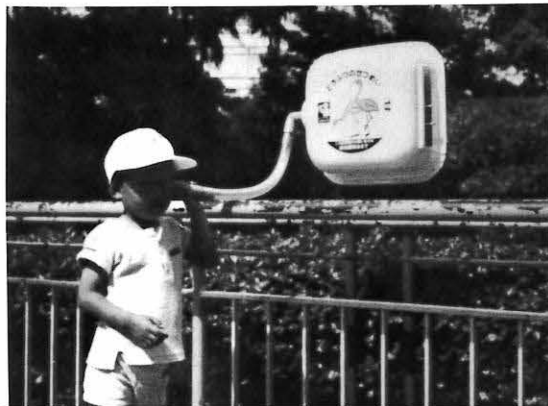
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での

お食事、ご休憩は

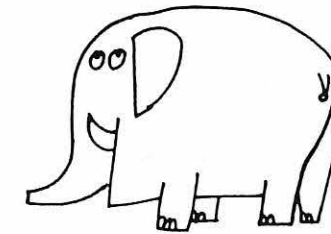
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎(06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話(06) 771-7110番

園内での写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ



雪印ヨーグルト

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

自然の
おいしさ

野生動物をみんなで守ろう

WE SUPPORT WILDLIFE!

天王寺動物園協会の売店に“WWF国際保護動物ぬいぐるみコーナー”が新設されました。このぬいぐるみの売上げの一部はWWFJ(世界野生生物基金日本委員会)に寄付されます。すばらしい野生動物を私たちの手で大切に守りましょう。

ぬいぐるみ販売コーナー新設



お申込み、お問い合わせは——

社団法人 大阪市天王寺動物園協会
(天王寺動物園内) TEL (06) 771-0201

株式会社 ファミリア商事部
TEL (078) 321-0345

●お電話でのお申込みは動物園協会まで。
なお、郵送の場合は実費を負担していただきます。

●WWF(WORLD WILDLIFE FUND)とは?
世界野生生物基金。世界中の危機に瀕している動物たちと、その自然環境を保護するための機関です。



なきごえ 昭和62年2月10日発行(毎月1回10日発行)第23巻 第2号 (通巻258号)

編集 集/大阪市天王寺動物園
発行人/大阪市天王寺動物園協会 中川道朗
印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部) 1,100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 大阪 (06) 771-0201
振替口座 大阪 37823

編集委員 (土井良彦/伊東重朗/藤野勝吉/樽本 勲/中川哲男/前田豊彦/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭/森本委利)
(大野尊信/山下奉之/農本武志/野口秀高/早川 篤/藪野幸司/堀 弘/大川光雄)